

経済・金融 フラッシュ

企業物価指数(2015年3月)

～輸入物価は下落基調が鈍化

経済研究部 研究員 岡 圭佑

TEL:03-3512-1835 E-mail: koka@nli-research.co.jp

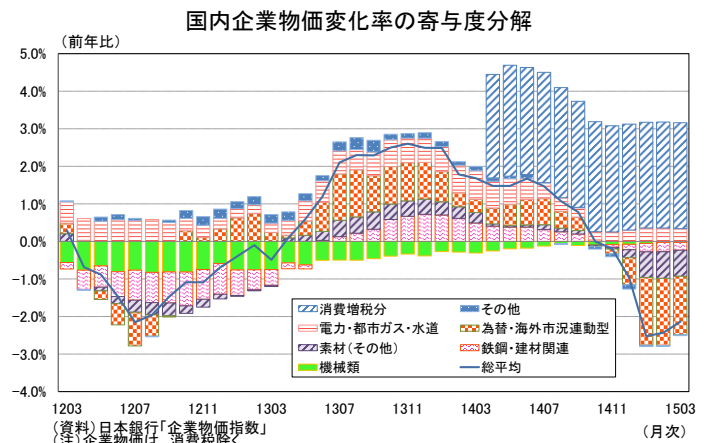
1. 消費増税の影響を除くと、下落幅は2ヵ月連続で縮小

4月13日に日本銀行から発表された企業物価指数によると、2015年3月の国内企業物価指数は前年比0.7%（2月：同0.4%）と事前の市場予想（QUICK集計：前年比0.4%）を上回る結果となった。前月比では0.3%と2月の▲0.1%からプラスに転じた。消費税分を除いた企業物価は、前年比▲2.1%（2月：同▲2.4%）と下落幅は2ヵ月連続で縮小した。

消費税分を除いた企業物価を寄与度別にみると、機械類が前年比0.0%（2月：同0.0%）、鉄鋼・建材関連が前年比▲0.2%（2月：同▲0.2%）、素材（その他）が前年比▲0.7%（2月：同▲0.7%）、為替・海外市況連動型が前年比▲1.6%（2月：同▲1.8%）、電力・都市ガス・水道が前年比0.3%（2月：同0.4%）、その他が前年比0.0%（2月：同0.0%）となっている。

3月の消費税分を除いた企業物価（前年比）の下落幅が縮小したのは、物価下落に寄与し

ていた鋼材・建材関連、素材（その他）の寄与度が前月から変わらないなか、為替・海外市況連動型のマイナス寄与が小さくなったためである。鋼材・建材関連の伸びは前年比▲1.6%と、2月の前年比▲1.9%から下落幅が縮小している。これは、中国などアジアにおける需給の悪化の影響により鉄鋼（2、3月：前年比▲2.4%）が下落基調を続けるなか、スクラップ類（2月：前年比▲19.3%→3月：同▲12.9%）のマイナス幅が大幅に縮小したことが影響している。一方、為替・海外市況連動型（2月：前年比▲17.6%→3月：同▲15.3%）は、これまでの国際商品市況の下落を受けて石油・石炭製品（前年比▲23.1%）が値下がり続ける一方で、非鉄金属（2月：前年比2.2%→3月：5.2%）が伸びを拡大したため、下落幅が縮小した。素材（その他）（2、3月：前年比▲4.1%）の内訳をみると、プラスチック製品（同0.6%）、繊維製品（同0.8%）がプラスの伸びとなる一方で、中国を中心とした需給の悪化を背景に、化学製品（同▲7.7%）が大幅なマイナスとなった。



原油価格（ドバイ）は、14年度後半の1バレル=100ドル台から下落を続けた後、1月の1バレル=40ドル台を底に持ち直しつつある。このため、企業物価（前年比）はマイナスのピーク時（1月：前年比▲2.5%）から3月には前年比▲2.1%までマイナス幅が縮小している。当面、原油価格下落による物価押し下げ効果が後ズレするため、消費税分を除いた企業物価（前年比）はマイナス圏での推移が続くものの、原油安の一服でマイナス幅は徐々に縮小すると予想する。

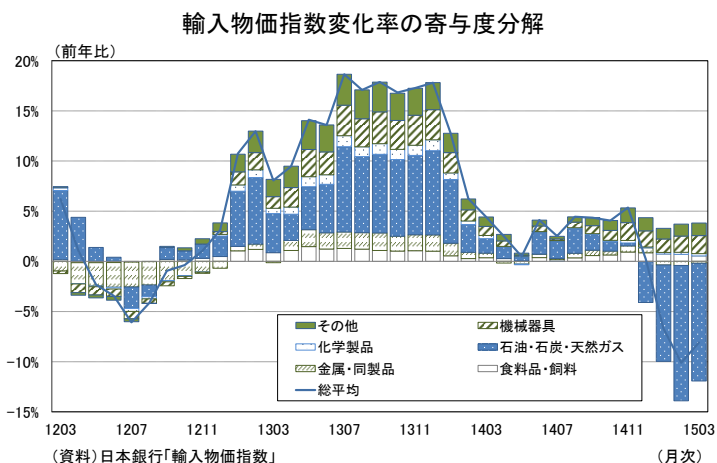
2. 輸入物価は下落基調が鈍化

3月の輸入物価（円ベース）は前年比▲8.1%（2月：同▲10.1%）と下落幅が縮小し、前月比では2.0%（2月：同▲5.4%）と4ヵ月ぶりにプラスとなった。

3月の輸入物価を寄与度別にみると、食料品・飼料が前年比0.5%（2月：同0.7%）、金属・同製品が前年比▲0.2%（2月：同▲0.4%）、石油・石炭・天然ガスが前年比▲11.7%（2月：同▲13.2%）、化学製品が前年比0.2%（2月：同0.2%）、機械器具が前年比1.8%（2月：同1.6%）、その他が前年比1.3%（2月：同1.2%）となっている。

食料品・飼料は、円安による押し上げ効果が続くなか、契約通貨ベースの下落幅拡大（2月：前年比▲0.4%→3月：同▲2.9%）を主因として、円ベースでの伸びが縮小（2月：前年比9.0%→3月：同6.9%）したことが、寄与度の低下につながった。それにもかかわらず、輸入物価（前年比）が大幅なマイナスを続けているのは、石油・石炭・天然ガスの大幅な下落によるところが大きい。3月の石油・石炭・天然ガスの伸びは前年比▲30.3%と、原油価格の下落基調を背景に2014年12月以降4ヵ月連続で2桁のマイナスが続いている。ただし、天然ガスが緩やかな下落基調を続けるなか、原油価格（ドバイ）の下落に一服感もあって石油・石炭・天然ガスの下落幅は2月の前年比▲34.4%から縮小している。

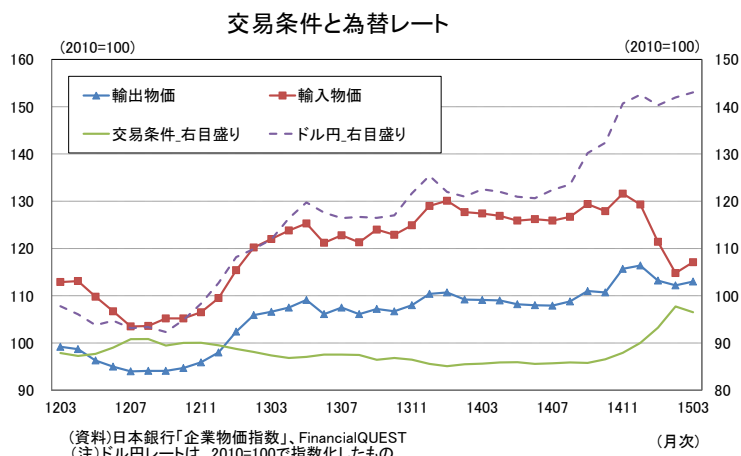
原油の国際市況価格は、時間的なラグを伴い原油輸入価格、天然ガスの輸入価格に反映される。足もとでは原油価格下落に一服感がみられることから、今後天然ガスの輸入価格下落に歯止めがかかる可能性が高い。当面、原油安による物価押し下げ効果が円安による物価押し上げ効果を上回るものの、原油安の一巡を主因として物価押し下げ効果は弱まるため、輸入物価（前年比）は緩やかなマイナス幅の縮小が見込まれる。



3. 交易条件は6ヵ月ぶりに悪化

3月の輸出物価は、前年比3.6%（前月比0.7%）、輸入物価は前年比▲8.1%（前月比2.0%）となった。一方、契約通貨ベースでは、輸出物価が前年比▲4.8%（前月比0.1%）、輸入物価が前年比▲17.1%（前月比1.0%）となった。

3月の交易条件（輸出物価／輸入物価×100）は96.5（2月：97.7）と、14年9月以来6ヵ月ぶりの悪化となった。



4. 素原材料価格はマイナスが続く

3月の需要段階別指数（消費税除く、国内品+輸入品）をみると、国内需要財価格は前年比▲3.6%（2月：同▲4.3%）と4ヵ月連続のマイナスとなった。需要段階別指数を項目別にみると、素原材料が前年比▲21.3%（2月：同▲24.7%）、中間材が前年比▲2.0%（2月：同▲2.3%）、最終財が前年比0.2%（2月：同0.1%）となっている。素原材料、中間材は引き続きマイナス圏である一方、最終財は1月（前年比▲0.3%）にマイナスとなった後、2ヵ月連続でプラスとなっている。

海外市況を反映しやすい素原材料は、原油、非鉄金属など資源価格の下落が続くものの、原油価格（ドバイ）が1月の1バレル=40ドル台を底に持ち直しているため、下落幅は縮小している。夏場以降の素原材料価格の下落が引続き中間財、最終財価格の下押し要因となっている。

当面、足元の原油安を主因とした素原材料価格の下落が後ズレして中間財、最終財価格に波及するだろう。ただし、原油価格の下落に一服感もあって素原材料は下落幅を縮小していることから、夏場以降最終財の上昇基調は明確なものになると予想する。

